

第18期・2021年度事業報告

新型コロナの影響により、都市部への一極集中の危うさが露呈すると共に、地域社会の基盤の貧弱さも随所で露見することとなりました。情報ステーションはまちづくりを「文化と経済の持続的発展」と定義し、多世代交流が自然と生まれる活動をもって事業に取り組んでまいりましたが、ポストコロナ時代において地域社会の重要性は増しており、民間図書館を中心とする我々の事業の役割も増していると考えます。第18期も、図書館の新規開設に力を入れ、全国各地での地域活性の事例を一つでも多く増やすことを目指し、技術開発及び蔵書の充実の両面から、より良い交流拠点づくりに取り組みました。

民間図書館事業

民間図書館事業は、地域の交流空間というコンセプトを実現するため、地域の方々の居場所や生きがいを提供できる拠点づくりを行い、図書館の利用、本の寄贈、ボランティアなど様々な形での参加を促し、民間図書館における地域住民との接点の最大化を目指しました。

拠点の核となる図書館機能の充実においては、図書流通の活性化を図り「魅力的な棚づくり」に取り組み、民間図書館らしいイベントの開催及びボランティアDAYの定期開催によって、人や本との新しい出会いや楽しい交流の場とすることを目指しました。

①ボランティアの活躍できる環境をつくる

- ボランティアDAYの継続的な参加者増を目指し、ボランティア説明会やライブラリーカンファレンスとの連動など、参加のきっかけづくりを工夫しました。
- コロナの状況を考慮しつつボランティア説明会を1月から隔月で開催し、新規ボランティアを獲得しました。
- 10月に船橋北口みらい図書館、4月に袖ヶ浦団地まいづれ図書館でライブラリーカンファレンスを開催し利用者・ボランティアと意見交換をしました。



北習志野てわたし図書館でボランティアDAY



船橋北口みらい図書館でボランティア説明会

②蔵書を充実する

- 寄贈本キャンペーンとして偶数月第4日曜日、年6回、自動車による寄贈本回収を行いました。定期回収及びチラシの作成、配布は、情報ステーションの認知度の向上に効果的でした。
- 船橋北口みらい図書館と袖ヶ浦団地まいづれ図書館で蔵書点検を行い、リクエスト対応の向上を目指しました。直営図書館では継続的に年に1回、実施します。
- 情報ステーションでは誰もが気軽にボランティアに参加できる環境を整え続けており、特に民間図書館の蔵書管理システムにおいては、寄贈頂いた書籍のバーコードを読むだけで自動で蔵書ラベルが作成され、老若男女誰もが簡単に蔵書登録をすることができる仕組みが出来ています。このたびこれらの仕組みと活動を福祉的支援が必要とされる方にも提供できないかと考え、福祉作業所として運営できる蔵書基地の設置を検討する事としました。3か所のB型作業所の見学を行うと共に、市役所担当課での説明やこれら施設で働く方のお話を聞き、情報を共有するための勉強会を行いましたが、本の登録、清掃などは比較的体系化しやすい作業であると考えられ、第19期においても引き続き検討を続けていきます。

③民間図書館を20館増やす

- 代理店である地域力研究所が5館（千葉市本町がま文庫本のまち図書館、西大宮未来庵みんなの図書館、SHINTO CITY図書館、針鼠書房船橋本店図書館、流山市野々下児童センター図書館）、手渡商事が1館（北習志野てわたし図書館）をオープンしました。目標には大きく届きませんでした。
- 継続的なインバウンドマーケティングで、全国からの問合せを増やすためにサイト制作を進めました。



2021/12オープン「西大宮未来庵みんなの図書館」



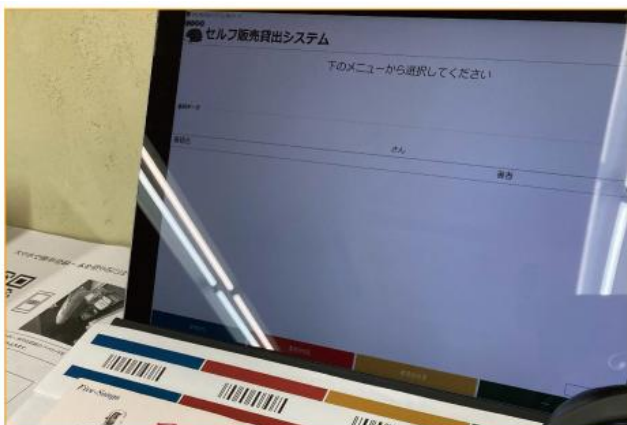
2022/3オープン「SHINTO CITY 図書館」

④民間図書館をアップデートする

- 月に1回のオンラインミーティングを定例化し、既存システムの課題や今後のデータベース運用について検討を進めました。データベースの構造の問題、コーポレートサイトの問題、図書館生活の問題とを区別し、課題を明らかにして検討する必要があると感じました。データベースについては、今後構造を検討していきたいと思います。
- 新型コロナ感染症対策として、バーコードリーダーを手を持たず、利用会員証や蔵書シールのバーコードを機械にかざすだけで貸出しができる非接触端末を5台入れ替え、残る旧型のセルフシステム7台は19期中に入れ替えます。
- BOOKPARKちばぎんざと大宮台ひだまりと本の家につき、針鼠書房船橋本店にも蔵書販売システムを導入し、運用テストを継続していますが、決済システムとの連動や操作手順等で課題もあり、一般向けのリリースにはもう一段階のアップデートを検討します。

⑤民間図書館との接点を拡充する

- 新型コロナウイルス感染症蔓延の状況のため、目標の年3回は実施できませんでした。しかし、1回実施した民間図書館ならではの久しぶりのイベントは、参加者に高評価を得ることができました。情報ステーション事務局、理事、会員、会員外の図書館関係者、文学好きの人々を結び付け、情報ステーションの認知度を向上させるためには非常に重要な手段だと確認できました。情報ステーションのプレゼンスを高めるため、高品質な地域密着イベントを今後も継続的に実施していきたいと思います。
- 本と地域をテーマに情報発信を行うために蔵書検索サイト「図書館生活」の改修を進めました。



蔵書販売システムを開発中



船橋にて文学散歩を開催

まちづくりサポート事業

新型コロナの影響により各種イベントは中止を余儀なくされると共に、今後の継続的な開催が危ぶまれるものが多数存在します。情報ステーションでは、地域社会におけるイベントを「風土や歴史を活かした多世代交流の機会」と捉え、そのサポートを行ってきましたが、不安定な景況や社会の疲弊により、資金面でも多くの課題を抱えています。

これらに対し総合的な支援体制をとるため、イベントサポート事業及びソーシャルファイナンス事業を一体的に運用し、新たに「まちづくりサポート事業」としてコロナ収束以降の各種地域活動の再始動に向け、広くサポートできる体制を整えました。

- ・ 広報宣伝支援 WEBの制作管理やチラシの配布等
- ・ 組織運営支援 ボランティアの募集や運営業務の受託
- ・ 資金調達支援 クラウドファンディングや寄付金募集



船橋北口みらい図書館で落語会



袖ヶ浦団地SCでウラニワマルシェに参加



毎年船橋駅前で行っている通行量調査



映画「20歳のソウル」などの広報活動にも協力

理事会

理事会は、事業計画及び予算の策定とその予実管理、計画達成に向けた戦略決定などを担当し、全体の調整役を担います。また、情報ステーションの目指す地域活性を達成するために、その理念や活動に賛同してくれる個人会員や法人会員を増やすために活動しました。

- ①会員の方の情報ステーションへの理解を深めてもらうと共に、活動参加の機会を増やす
- A4見開きサイズのフルカラー会報誌を毎月発行し、廣瀬理事の読書コラムを連載したほか、各種イベントや関連団体の広告などを掲載し、会報誌の充実を図りました。
 - 理事及び会員の参加機会として福祉作業所についての勉強会や、蔵書管理システムの再確認、中間監査の公開や延べ120館の民間図書館全館チェックなど、今期の事業進捗に合わせ、適宜いま情報ステーションに必要な知識を共有する機会を作りました。また新規会員や活動に興味のある方などの参加も得て、広がりを持つこともできた。
 - 昨年の西船橋に続き、本町事務所にて座談会形式のハイブリッド総会および活動報告会を開催しました。
 - 7/2(土)3年ぶりに暑気払いを再開、7月に新規開設した北習志野てわたし図書館にて、例年同様に12時開始、24時終了で実施し、約60名の参加がありました。開催12時間中、絶えず来客があり、民間図書館の新たな魅力のアピールとなりましたが、来客の方々にアンケート（開催告知）と会員勧誘を実施することを次回への課題にします。
- ②オープンな運営を実現する
- 議事録等の情報公開を継続しました。
 - オンラインによる中間報告会を予定しましたが、見送りました。
- ③会員を増強する
- 個人会員2人増加、法人会員2社獲得しました。



本町事務所から配信しオンラインにて総会を開催



北習志野てわたし図書館にて久しぶりの暑気払い

評議会

経営評議会は理事及び監事経験者を中心として組織し、年4回の会議にて中長期的視座で情報ステーションの事業を確認すると共に、理事及び事務局の活動を支援し、NPOのステークホルダーである地域社会を構成する多様な方々に対して、活動への参加・参画を促します。

- 年間4回の評議会を開催し、19期理事候補1名を推薦しました。
- 各評議会の中で理事会の事業運営状況と中長期的な課題を共有し、各理事OBよりアドバイスをいただき理事会及び事務局の活動を支援しました。

事務局

事務局では、理事会の決定に基づき適切に事務を処理し、特に日常的な情報発信に努め、地域交流の場を更新・運営を心掛け、情報公開、取材への対応、情報サイトへの告知、スタッフ及びボランティア管理など日々の運営を滞りなく行います。

引き続き、認定NPO法人取得に向けて、寄付キャンペーンにて情報ステーションへの支援を呼びかけます。

- 中間監査、期末監査を公開で開催し、ガバナンスの強化に努めました。
- 認定取得に向けて、年間3,000円以上の寄付者を100人に増やすため、寄付キャンペーンの一環として、寄贈本回収ボックスの設置をテーマにネット上で寄付型クラウドファンディングを1回実施し、48名の寄付者を得ました。この取り組みで、デジタルでの支援依頼の実施規模や課題を把握できたため、来期も引き続きクラウドファンディングでの寄付募集を企画します。またリアルでの寄付募集が振るわなかったため、イベントの中での寄付募集の企画は来期の課題です。



48人から141,522円の寄付をいただきました



日常の事務局業務を行う船橋北口みらい図書館